

フルデジタル修復を目指して～デジタルコアの一考～

Digitally made abutment aiming for full digital restoration.



日本臨床歯科 CAD/CAM 学会九州支部

植田 愛彦

NARUHIKO UEDA

I 目的： 歯科用 CAD/CAM の普及により失活歯の補綴物はデジタル化が当たり前になったが、未だ支台（コア）はアナログが主流である。完全デジタル化をめざして支台（コア）の作製方法を提案する。

II 方法： アナログの支台の脱離症例より原因を考察し、デジタル化のための IOS、材料および接着材料、形成と接着のプロトコルを提案した。

III 結果： IOS での撮影に適した形成は、感染象牙質を除去して可能な限り太い直径で、応力集中を避けるため歯頸部が極力平面でなだらかにポストのテーパーへ移行して先端の窩底へは再度なだらかに移行する。テーパーは $4\sim 8^\circ$ 、10mm 以内で複数根の場合は平行性に注意する。材料にグラスファイバー強化型レジン（トリニア）と PEKK のペクトン、接着材料にスーパーボンドを使用する。

IV 考察および結論： 今までのファイバーコアの弱点と言える歯質が脆弱、フェルールが少ない症例に有効である。アナログ間接法よりも時間短縮および適合性が向上し、直接法よりも接着性および曲げ強さが向上している。一体型のため応力に強く、長期的な維持にも有効である。費用と操作性ならトリニア、ブラキサーなどにはペクトンと症例に応じての使い分けが大切である。誰もが簡単により良い結果を出す方法としてデジタルコアを推奨する。

1992 年 九州歯科大学卒業
1998 年 愛デンタルクリニック開業
2015 年 医療法人愛彩会 理事長
2020 年 九州歯科大学大学院卒業

博士（歯学）
日本外傷歯学会認定医
日本歯科放射線学会準認定医
日本臨床歯科 CAD/CAM 学会会員
ISCD セレック国際トレーナー